日本語コース受講者の事前調査の活用について

増倉　洋子・鹿島　英一

はじめに

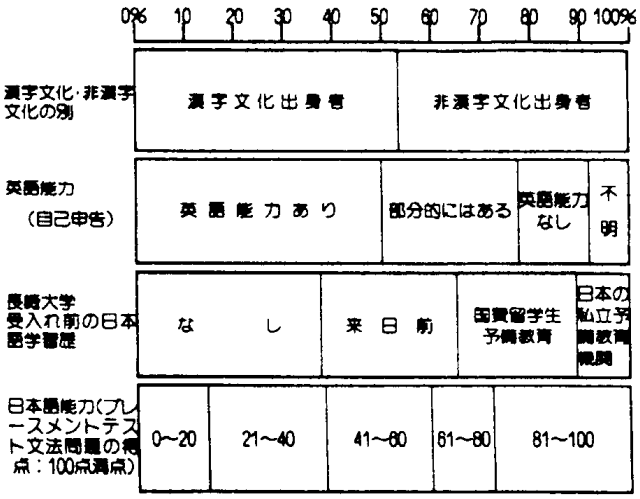
1．長崎大学留学生に対する事前的評価の必要性

右記のものは、長崎大学の日本語補講受講者の学習背景を調査したものであるが、その背景は極めて多様なものがある。特にその日本語能力に関しては、0に近い者から上級の能力を持つに至る者まで実に多様な様相を示している。また彼らの感じている日本語の必要性も「講義を聞く」「授業で討論する」「専門の文献をよむ」「レポートを書く」から「バスや電車に乗る」「アパートの家主と話す」「子供の学校で話す」（注２）にいたるまで多岐に渡っている。

表１（注１）

日本語補講受講者の多様な学習背景

（1992年前期計47名）



このような背景をもつ留学生の授業を行うにあたって、以後の指導の内容や方向を決定していくための指針となるなんらかの事前的な評価の必要性は、不可欠といえる。これらの情報をもとに、適切な授業内容の決定、シラバスの作成、クラスメンバーの構成、最適な教授法・教材の選択等が行なわれなければならない。

以下に、その事前的な評価の方法にはいかなるものがあるのかを概観し、併せて長崎大学外国人留学生指導センターで実際に行われている方法を紹介するなかで本稿の考察の対象を明らかにしていこうと思う。

（以下、「長崎大学外国人留学生指導センター」を「長大センター」と略称して用いる。）

2．事前的評価の方法と内容・長大センターでの実施例

留学生に対する事前的評価の方法には、大きく分けて以下の三つのものがある。

(1) 質問紙による方法

これは、下記のような質問紙に（左は実際にある機関で行われているもの（注３）右は長大センターで1990年以来毎年行われているもの。）、外国語の学習経験・到達水準・滞在期間・日本に来た目的・日本語の必要性等を記入させる方法である。このような方法によって、かなり広範囲で有用な情報を得ることができるし、これからの指導の上で参考になることも多い。長大センターでは実際以下のような形式のものが毎年行われている。しかし、実際に授業を編成するにあたって重要な日本語能力や知識を知ることは、この方法では不十分であり、次に述べるプレースメントテストや適正テストによらなければならない。

表２

Q35) List the foreign language(s) you studied at school. (longest first)

	what language	from what age	how many years	how often
(#)				

about (#)

1) The emphasis was on:
1( ). listening, 2( ). speaking, 3( ). reading, 4( ). writing
2) Did you use a tape recorder? 1( ). yes, 2( ). no
3) Did you use a computer? 1( ). yes, 2( ). no
4) How many hours did you study after the lesson including homework?
1( ). less than 1 hour, 2( ). 1 hour, 3( ). 2 hours, 4( ). 3 hours,
5( ). more than 3 hours
5) Did you have opportunities to use the language outside the class?
1( ). yes, 2( ). no
6) If 'yes' in 5):
a( ). listening—tapes, radio, T.V., video, movies, etc.
b( ). speaking—met someone from that country, went to that country
c( ). reading—magazines, newspapers, books, etc.
d( ). writing—letters, papers, etc.

Q36) Which type of language student are you?
1( ). visual(good eyes) 2( ). aural(good ears)
3( ). memory(good memory) 4( ). social(good communication)
5( ). grammatical(good grammar) 6( ). other _____

Q37) How fast do you learn?
1( ). slow
2( ) slow and forgetful
3( ). slow and steady
4( ). not slow but not fast
5( ). fast
6( ). fast and forgetful
7( ) fast and steady

表３

留学生センター日本語コース受講者アンケート
RYUGAKUSEI CENTER JAPANESE LANGUAGE PROGRAM QUESTIONNAIRE TO THE APPLICANT

氏名 NAME _____ 19 年 /YEAR 月 /MONTH 日 /DATE

自費での勉強は何ですか。 OCCUPATION IN YOUR COUNTRY		滞在費用はどうなっていますか。 FINANCIAL SOURCE OF YOUR STAY IN JAPAN
いつ日本に来ましたか。 DATE YOU CAME TO JAPAN	19 年 /YEAR 月 /MONTH	□ 日本政府 JAPAN'S MONBUSHO SCHOLARSHIP □ 自国政府 YOUR GOVERNMENT'S SCHOLARSHIP
いつ長崎大学の学生になりましたか。 DATE ENROLLED TO NAGASAKI UNIV.	19 年 /YEAR 月 /MONTH	□ 私費 YOUR OWN EXPENSE
いつ留学を終える予定ですか。 EXPECTED DATE TO FINISH STUDY HERE	19 年 /YEAR 月 /MONTH	□ その他 OTHER [ ]

長崎大学に来る前に日本語を勉強したことがありますか。 DID YOU STUDY JAPANESE BEFORE COMING TO NAGASAKI UNIVERSITY? □ はい YES □ いいえ NO

「はい」と答えた人は、どこで、どのくらい勉強しましたか。 IF THE ANSWER IS "YES", WHERE AND HOW LONG DID YOU STUDY IT?

学校名 NAME OF THE INSTITUTE	所在地 LOCATION	総学習時間 HOURS OF STUDY IN TOTAL
		約 ABOUT 時間 HOURS
		約 ABOUT 時間 HOURS
独学した。 STUDIED BY YOURSELF		約 ABOUT 時間 HOURS

長崎大学で日本語を勉強したことがありますか。 HAVE YOU EVER STUDIED JAPANESE AT NAGASAKI UNIVERSITY? □ はい YES □ いいえ NO

「はい」と答えた人は、コース名と期間を書いてください。 IF THE ANSWER IS "YES", PLEASE LET US KNOW THE COURSE TITLE(S) AND THE PERIOD.

コース名 COURSE TITLE	期間 PERIOD
	19 年 /YEAR 月 /MONTH ～ 19 年 /YEAR 月 /MONTH
	19 年 /YEAR 月 /MONTH ～ 19 年 /YEAR 月 /MONTH
	19 年 /YEAR 月 /MONTH ～ 19 年 /YEAR 月 /MONTH
	19 年 /YEAR 月 /MONTH ～ 19 年 /YEAR 月 /MONTH

(2)　プレースメントテスト

学習者が既習者の場合は、通常、筆記テストを用いて日本語の習得度を調べる。読解・文法・文字・語彙・作文等の多方面に渡るテストを組み合わせておこなう。同一の学習者であっても、文法能力や作文能力等の間でばらつきがあることが多いので、個人の学習の偏りや不十分な点を見られるようなテストの作成が望ましい。長大センターでは主にこのテストによって、授業内容・クラス編成を決定しており、本稿の分析は主にこのテストを対象とする。

(3)　適正テスト

このテストは主に日本語の未習者に対して行われることが多い。日本語の未習者をクラス編成する場合もできるだけ等質な集団として編成することが望ましい。それには学習者の習得の容易さ・習得に要する時間等のことがらを個人別な傾向として測定できるようなテストの実施が望まれる。

測定項目としては以下のようなものが挙げられている。

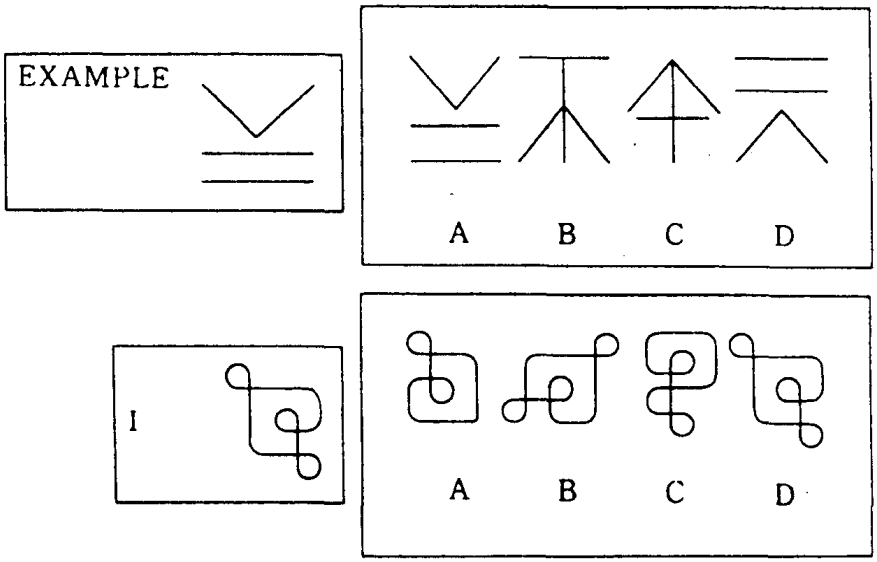
1）視覚情報を処理する能力の測定　2）聴覚情報を処理する能力の測定

3）文法構造を解析する能力の測定（注4）

実際にどのようなものが行われているか、1）の具体例を以下に挙げておく。

表4（注5）

I. First, you will see one figure and then come a pause, After pause you will see four figures. Among the four. choose the one which is the same as the one you saw first and circle, a, b, c or d on your answer sheet.



現代の長大センターにおいては、日本語のまったくの未習者の割合はたいへん少ないということもあり、この方法は実施していない。またプレースメントテストと同時に行った場合、二つの結果をどう組み合わせて分析するかも難しい問題であろう。

Ⅰ．長大センターでのプレースメントテストに関する考察・及びそこに見られる留学生の日本語能力

1．過去4年間のプレースメントテストの項目と内容

長大センターでは、1990年から現在（1995年）まで過去6年間にわたってプレースメントテストが行われている。その中で資料の残存している1990年・1991年・1992年・1995年のテストの内容は以下のようなものである。

1990年－読解・文法
1991年－読解・文法・表記・作文
1992年－読解・文法
1995年－文法・表記

（この他に面接形式による、会話のテストが行われているようであるが、形に残る資料としては残存していないようである。）

2．各年度のテストの具体例及び考察

(1)　1990年の読解・文法のテストに関して

A．読　解

問題文を読んで、解答を自分で書く問題である。

a

ブラウンさんはイギリス人です。去年の四月に、奥さんと一緒に日本へ来ました。ブラウンさんは若くて、背が高いです。 ブラウンさんは今、日本語を勉強していますが、奥さんはまだしていません。来月から勉強します。

設問　1．「ブラウンさんは日本人ですか。」2．「ブラウンの奥さんはいつ日本へ来ましたか。」3．「ブラウンさんは背がたかいですか。低いですか　4．「ブラウンさんの奥さんは、今、日本語を勉強していますか。」

b

きのうは休みでした。スラメットさんは、弟と映画を見に行きました。映画の後、本屋へ行きました。本屋に着いた時、弟は漫画がほしいと言いました。弟はスラメットさんに買ってもらいました。スラメットさんは自分が買いたい本を探しましたが、見つかりませんでした。そこで店員に聞いてみましたが、やはりありませんでした。二人は食堂でごはんを食べてうちに帰りました。バスに乗りました。バスの中でスラメットさんはたばこを吸おうと思いましたが、運転手にだめですと言われました。

設問　1.「スラメットさんはだれと映画をみましたか。」2.「スラメットさんは何をしに本屋へ行きましたか。」3.「だれがだれに漫画を買ってあげましたか。」4.「スラメットさんは自分が買いたい本を買えましたか。」5.「二人は何をしてから家に帰りましたか。」6.「バスの中でたばこを吸ってもいいですか。」

（文中の漢字はすべてひらがなが付き。）

aの「本文の文法項目」

・～は　名詞です。
・～といっしょに
・～しています。（状態）
・まだ～していません。
・時間・時期＋に
・～へきました。
・～時間・時期＋から

bの「本文の文法項目」

・～は　　やすみでした。
・～動詞マス形＋に　行きました。
・～のあと
・～た時（連体修飾節）
・～がほしい
・～動詞テ形＋もらいました。
・買いたい本（連体修飾節）
・～てみる
・動詞テ形＋動詞（動作の連続）
・動詞意向形＋と思いました。
・「　　」と（引用）
・動詞受身形

以上の文法項目を見ると、aのものはほとんど初級前期（注6）の文型を用いて出題されていることがわかる。bのものは意向形・受身形・動詞テ形＋もらいました、等初級後期の文型が入り、全体として初級の中ほどから後半の文型の理解の有無を問う出題になっている。

B．文　法　問　題

すべて4択の問題（漢字に関しては振り仮名なし）

1．左（　）曲がって下さい。

選択肢　1．で　　2．を　　3．が　　4．に

2．東京駅（　）おりました。

1．で　　2．を　　3．へ　　4．に

3．リーさん（　）つくってもらいました。

1．が　　2．は　　3．に　　4．へ

4．いつ国に帰る（　）決めていません

1．について　　2．か　　3．ことを　　4．かどうか

5．国の友達（　）来たので、大学を案内してあげた。

1．が　　2．は　　3．から　　4．に

（以上、1から5は初級前期～中期の助詞の問題）

6．あんなに＿＿＿＿＿、どうして分からないのだろう。

1．勉強しているでも　2．勉強しているだけど3．勉強しているのに

4．勉強していても

（文の接続の問題　辞書形に「のに」が接続することが分かっていれば、解答できる。初級後期の文型）

7．A「ロッキーって　映画、見た。」

B「うん　＿＿はおもしろかった。」

1．あれ　2．それ　3．この　4．これ

（会話中の両者が知っている場合「あれ」を用いるという知識を問う問題・初級後期～中級）

8．A「新しい本のこと、もう知っていますか。」

B「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」

1．いいえもう知っていません。2．いいえもう知りません。

3．いいえまだ、知っていません。4．いいえまだ、知りません。

（「もう」に対する否定の場合「まだ」を用いる。また、「まだ」の場合文末に動詞「ていません」の形をとるが「知る」は「ていません」の形がないので「知りません」を用いる、という二つの知識を問う問題・初級中期）

9．A「一緒に、旅行いかない。」

B「先月、テレビを＿＿＿＿＿＿、今　お金はないんだ。」

1．買っていたから　　2．買ってしまったから

3．買ってあるから　　4．買っておいたから

（「しまった」の「意に反してこんなことをした」、というニュアンスが分からないと解答できない・初級後期）

10.「このタイプライター、お借りしたいんですが」

1．「はい、どうぞ、お使いください。」

2．「はい、どうぞ、お借りください。」

3．「はい、どうぞ、借りて下さい。」

4．「はい、どうぞ、貸して下さい。」

（「借りてください」という言い方は、あまりしない。借りる・貸すの方向性に関する問題。「お借りしたい」の返答として「お使いください」という敬語表現をするのは、かなり難しいのではないか。・初級後期）

11.「先生、このお荷物、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。」

1．持ってさしあげましょうか　　2．お持ちしましょうか

3．持ってあげましょうか　　4．持ってもらいたいんですが

（「動詞テ形＋あげる」・「動詞テ形＋差し上げる」ともに、相手に直接話す場合はおしつけがましくなり、失礼になるという知識がないと答えられない問題・初級後期）

12. 客：「すみません、どこで切符かうんですか。」

駅員：「その機械にお金を入れると、＿＿＿＿＿。」

1．きっぷが出ていますよ　　2．きっぷを出しますよ

3．きっぷを出していますよ　　4．きっぷが出ますよ

（「と」条件節の後件に何がくるかの問題、「～と→どうなるか」という結び付きで捉えられるかどうかの知識を問う問題・初級後期）

13. 本を見て練習しているうちに、＿＿＿＿＿＿。

1．自分で料理が作れることになりました

2．自分で料理が作れることにしました

3．自分で料理が作れるようになりました

4．自分で料理が作れるようにしました

（「なりました」の前には動詞を状態性にする「ように」がつく。また、「ようになりました」と、自己決定の「しました」との区別を知識を問う問題・初級中期）

14. 「あれ？どこかで、ピアノをひいてるのが、＿＿＿＿＿。」

　1．聞かれますよ　　2．聞けますよ

　3．聞くことができますよ　4．聞こえますよ

（耳にはいるという意味の「聞こえる」と可能形の区別の問題・初級中期）

15. 今、私　＿＿＿＿＿大切なのは、日本語の勉強です。

　1．にとって　　2．のために

　3．について　　4．において

（これは1・2ともに正解なのではないか。「～にとって」初級後期）

16. 吉田さんと伊藤さんを＿＿＿よしださんのほうが背がたかい。

　1．くらべる時　2．くらべて　3．くらべると　4．くらべるので

17. 暗く＿＿電気をつけてください。

　1．なったと　　2．なると　　3．なるなら　　4．なったら

（「～と」の後件（注7）には「依頼形」はこず、前件の成立を条件として後件を導く「たら」が適当という条件文の知識を問う問題・初級後期）

18.「ねえ、へんな、においしない？」

　「＿＿＿においは、何かもえているみたいね。」

　1．この　　2．その　　3．あの　　4．どの

（場所以外の「この」を使いかたの知識を問う問題・初級後期～中級）

19. ポンさんは＿＿英語を教えています。

　1．子ども3人に　　2．子どもに3人

　3．3人の子どもに　　4．3人こどもに

（数詞が名詞を形容する場合の順番の問題・中級）

20. このアパートのいいところは＿＿＿＿＿＿。」

　1．駅に近いです　　2．駅に近いことです

　3．駅に近いのです　　4．駅に近いわけです

（形式名詞「こと」「の」「わけ」の弁別の問題・中級）

21. A「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。」

　B「えーと　結婚して10年　ぐらいです。」

　1．結婚して何年になりますか　　2．結婚の後で、何年になりますか

　3．何年間結婚していますか　　4．どのくらい結婚していますか

（「～て何年」の適切な用法が理解できるかどうかという問題・中級）

22. 父は家族のことは考えずに、何でも自分の好きなことをやってきた。

きっと、本人は幸せだったと____。」

1．思った　2．思っている　3．思っていた　4．思う

（誰がいつ誰に対して思っているのかを考慮し、選択する問題・中級）

23. A「きのうの会には、ずいぶんたくさん集まったそうだね。」

B「_____。」

1．まさか、30人ぐらいは来ると聞いていたけど、50人も来るとは、思わなかったよ

2．30人ぐらいは、まさか、来ると聞いていたけど、50人も来るとは思わなかったよ

3．30人ぐらいは来ると聞いていたけど、まさか、50人も来るとは思わなかったよ

4．30人ぐらいは来ると聞いていたけど、50人もまさか、来るとは思わなかったよ

（副詞「まさか」の意味とそれが何に係るのかを理解し、適切な位置を選択する問題・中級）

24. たばこは体に悪いと知りながら_____。」

1．吸わないつもりです　2．吸いません

3．吸っていません　4．吸っています

（「ながら」の意味と共起する文末表現の用法の理解を問う問題・中級）

25. 日本人だからといって、なにも漢字を_____。」

1．たくさん知っているわけではない

2．たくさん知っているわけがない

3．たくさん知っているわけだ

4．たくさん知っているわけがない

（「わけではない」の意味と用法の理解を問う問題・中級）

Ⅱ　次の文を読んで、もっとも正しいと思うものをひとつ、1．2．3．4の中から選んで番号を書きなさい。

（問題文の文意と同様の文意を持つものを選択する問題である。）

26. 雨がふっていなかったら、山の上まで行けただろう。

1．雨がふっていなかったので、山の上まで行けた。

2．雨がふっていなかったのに、山の上まで行けなかった。

3．雨がふっていたので、山の上まで行けなかった。

4．雨がふっていなかったのに、山の上まで行けた。

（「～たら～動詞タ形」が後悔の意味を表し、実は過去においてそのことは実現してなかった、ということを表す用法の理解を問う問題・中級）

27. 山田さんは田中さんに貸してもらった本を、杉本さんに貸してあげました。

1．田中さんは杉本さんに本を借りました。

2．杉本さんは山田さんに本を借りました。

3．田中さんは山田さんに本を借りました。

4．山田さんは杉本さんに本を借りました。

（誰が誰に貸してもらい、貸してあげたか、という行為の及ぼされる方向性の理解を問う問題・初級後期）

28. 山田さんは弟の太郎に、田中さんのカメラをこわされて困っています。

1．田中さんがカメラをこわしました。

2．山田さんがカメラをこわしました。

3．山田さんの弟がカメラをこわしました。

4．田中さんの弟がカメラをこわしました。

（「こわす」という行為の行為者は誰で、誰のカメラをこわしたのか、という受身文の理解を問う問題・初級後期）

29. 田中さんは、今日はくるんじゃないかと、思います。

1．田中さんは、今日はたぶん来るでしょう。

2．田中さんは、今日はたぶん来ないでしょう。

3．田中さんは、今日は来たようです。

4．田中さんは、今日は来なかったようです。

（「来るのではないか」が否定文ではなく、事態を判断する場合の推量表現であることの理解を問う問題・中級）

30. こうなったからには、私が行かざるをえないだろう。

1．私は行くはずがない。

2．私は行かないはずがない。

3．私は行くわけにはいかない。

4．私は行かないわけにはいかない。

（「行かざるをえない」が「行かなければならない」に近い意味であることの理解を問う問題・中級）

・以上、26～30は区分としては中級の問題が多いのであるが、選択文の意味も同時に把握しなければならず、中級も中程のレベルの問題になるのではないか。

上記のような問題の考察を通じて問題のレベルを以下のように分類・規定し、各々の平均点及び点数の分布を調べてみた。

「読解」　初級前期～中・後期

「文法」

問題　1～18　初級・中期～初級・後期　（文法　Ⅰとする）
　　19～25　中級・前期　（文法　Ⅱとする）
　　26～30　中級・中期程度　（文法　Ⅲとする）

［1990年度プレースメントテスト結果］

受験者　66名　　漢字圏　42名
　　非漢字圏　24名

表5　平均得点（%）

	総合得点	漢字圏の学生	非漢字圏の学生
読　解	70	76	59
（文法Ⅰ）	46	51	34
（文法Ⅱ）	29	34	20
（文法Ⅲ）	25	33	12
文法計	33	39	22

表6　「レベル別の人数」

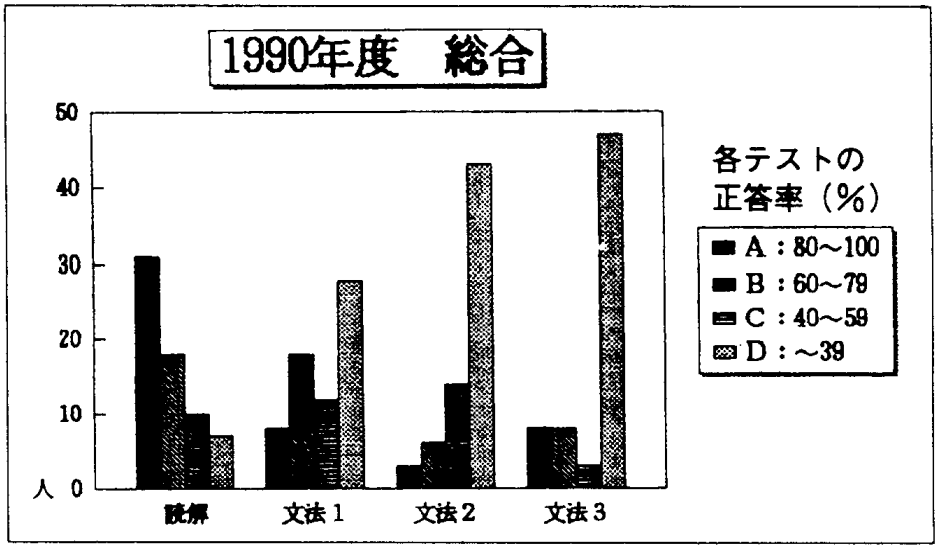
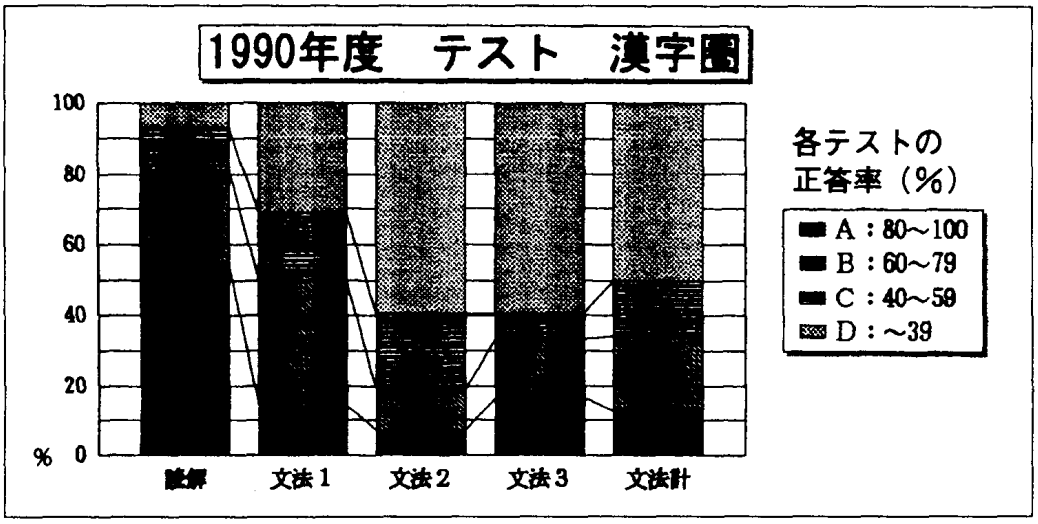


表７　「レベル別の人数の割合」



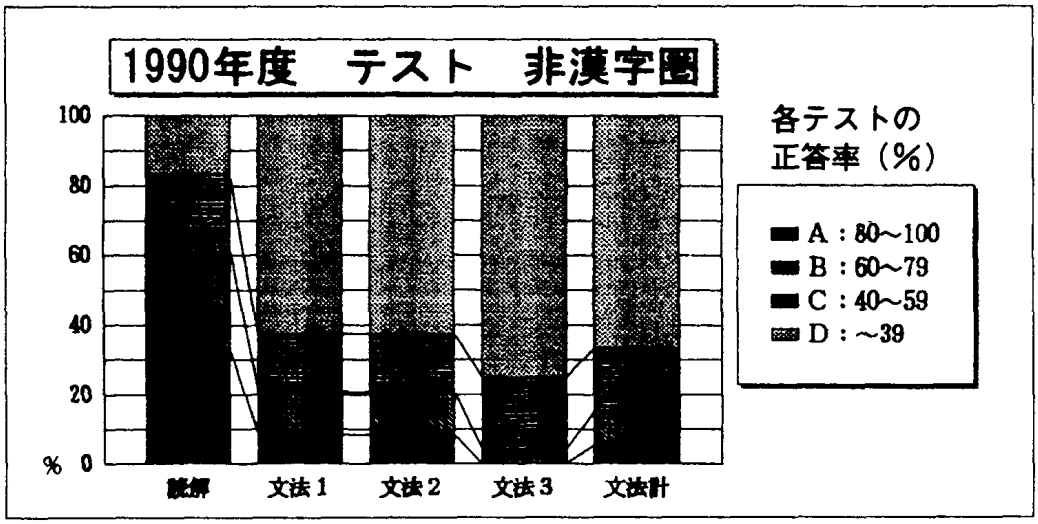


表５・６・７から次のようなことがいえるのではないか。

読解に関しては難易度の低さもあってかなりの高得点をあげている。また漢字圏と非漢字圏の学生を比較すると10点以上の開きがある。これは問題に全部ひらがながふってあったことからみて、漢字による障害とは思えず、語彙や文型知識に差があるのではないかと思われる。レベル別のグラフ（表７）を見ても漢字圏はＡ・Ｂランクの合計が80％を越えるが、非漢字圏の場合は60％程にとどまっている。逆に59点以下のＣ・Ｄランクは非漢字圏が漢字圏の二倍の割合で存在し、40％に近い学生がＣ・Ｄランクに存在していることがわかる。つまり初級前期から中期のレベルにかけても、特に非漢字圏に対しては読解指導の必要性があるといえるのではないか。

文法に関しては、初級も中・後期から中級にかけての問題が多いので、得

点はかなり低く、（文法Ⅰ）で五割、（Ⅱ・Ⅲ）で各三割の得点となっている。初級中・後期からの文法知識の定着がかなり不完全で、中級以降は三割以下の理解しかできない、というのが現状であろう。文法知識に関しては、中級以降はもちろん初級中・後期からの系統的指導の必要性があるといえる。ここでも漢字圏・非漢字圏の得点の差は各々10点～20点開いている。（しかし文法の場合は先に指摘したように、問題文及び選択肢の文に振り仮名が一切なく、漢字が障害になっての点数の開きであることも考えられるのであるが。）表7を見ると、特に非漢字圏のDランクの割合の多さが目立ち、初級の中・後期で60％近く、中級以降は80％近くの者が理解できていないということが現状であろう。

このようなテスト結果を参考に1990年度は下記のような時間割が組まれている。

表8

1990年度　前期（1990.5.7～7.7/9.10～10.20）

	月	火	水	木	金	土
8：50	文型・会話 Ⅰ	文型・会話 Ⅱ	文型・会話 Ⅲ	文型・会話 Ⅰ	文型・会話 Ⅱ	文型・会話 Ⅲ
10：30						
10：40		専門日本語（経済） Ⅲ			専門日本語（経済） Ⅰ	日本の生活と文化 Ⅰ
12：20						
13：20	聴解・スピーチ Ⅰ	読解・作文 Ⅴ	読解・作文 Ⅰ		漢字 Ⅰ	
15：00						
15：10	聴解・スピーチ Ⅲ	文型・会話 Ⅴ	読解・作文 Ⅲ	日本の生活と文化 Ⅲ	文型・会話 Ⅴ	
16：50						

「文型・会話」の授業は受講者の文法レベルのばらつきに応じて「文型・会話Ⅰ」から「Ⅴ」までの段階が設けられ、0に近い初級から中級にいたるまでの授業が段階ごとに受けられるよう細かく配慮されている。「読解・作文」も「Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ」と三段階に分割され、初級から中・上級段階まで広範

囲にわたる受講者の存在に対応できるように組まれているといえよう。

(2) 1991年の読解・表記・文法・作文のテストに関して

A．読　解

1990年同様、問題文を読んで解答を自分で書く問題である。

a

ユンさんはマレーシア人の学生です。去年の四月に日本へ来ました。毎日８時半に研究室に行きます。昼ご飯は食堂で食べます。食堂は11時半から２時までです。昨日は日曜日でした。ユンさんは公園へ行きました。公園でタイ人のスラメットさんに会いました。

設問　1．「ユンさんは学生ですか。」2．「ユンさんいつ日本へ来ましたか。」3．「食堂は何時からですか。」4．「ユンさんは昨日どこへ行きましたか。」5．「ユンさんは昨日タノムさんと会いましたか。」

b

おとといユンさんの弟が日本へ来ました。ユンさんは日本語が上手ですが、弟はまだ日本語を話すことができません。弟は日本語を勉強したいので、昨日ユンさんと一緒に本を買いに行きました。本屋の中で、日本語の本がどこにあるのか分かりませんでしたから、店の人に聞きました。店の人は教えてくれました。良い本が見つかりました。ユンさんは弟に買ってあげました。本を買ってから、二人は近くのお寺へ見物に行きました。ちょうどユンさんの友達のアリさんも来ていました。

設問　1．「弟は日本語を話すことができますか。」2．「弟はどうして本屋へ行きましたか。」3．「日本語の本がある所を、だれが教えてくれましたか。」4．「だれが、だれに、本を買ってもらいましたか。」5．「友達のアリさんはどこにいましたか。」

（文中の漢字はすべて振り仮名付き。問題ａの本文及び、設問全部にローマ字文が付記されている。問題ｂにはなし。）

「ａの本文の文法事項」

・～は～の～です。　　・（時期・時刻）に～へ　来ました。行きます。

・（場所）で食べます。・～から～まで　です。

・～は～でした。　・～へ～行きました。　・～（人）に会いました。

「bの本文の文法事項」

・（場所）へ来ました。・～は～が上手です。・～を～ことができません。

・～動詞マス形＋たい　・～といっしょに　・動詞マス形＋にいきました。

・どこにあるのか　・（人）に　聞きました。　・動詞テ形＋くれました。

・あげました。

以上、読解に関しては1991年のものよりかなり易しくなり、初級前半の文法項目のみに関する出題になっている。特に問題のaは問題文・設問ともローマが付記されており、ひらがなの読めない学生の読解能力も測れるよう配慮されている。

B．表　記

1991度から表記の問題が新たに加わっている。（ひらがな→漢字・漢字→ひらがな・ひらがな→カタカナの変換の問題である。）

1．正しい読み方を一つを選んでください。

a．ドアの　そばに　女の　人が　います。
　(1)　　(2)　(3)

(1)　a．とあ　b．とわ　c．どあ　d．どな

(2)　a．おんな　b．おおな　c．おな　d．おうな

(3)　a．れん　b．いれ　c．じん　d．ひと

b．私は　本を　読むのが　好きです。
　(1)　(2)　(3)　(4)

(1)　a．わだし　b．わし　c．わたし　d．し

(2)　a．ほん　b．ぼん　c．ぽん　d．もと

(3)　a．よむ　b．やむ　c．ゆむ　d．のむ

(4)　a．ほうき　b．いき　c．こうき　d．すき

2．正しい書き方を一つを選んでください。

a．じんこうは　にほんの　ほうが　ないじぇりあより　すこし　おおいで
す。(1)　(2)　(3)　(4)　(5)

(1)　a．入口　b．人工　c．人口　d．入工

(2)　a．二本　b．日本　c．二木　d．日木

(3)　a．ニエジェリア　b．ニエジョリアc．ナイジャリアd．ナイジャリア

(4)　a．少し　b．過し　c．小こし　d．少し

(5)　a．多い　b．大い　c．応い.　d．大井

b．この　てーぷれこーだー(1)は　おんがく(2)を　きく(3)のには　いいですが

えいご(4)の　べんきょう(5)には　ちょっと。

(1)　a．トープリケードー　b．ナーピリニーダー

c．テープレコーター　d．テープレコーダー

(2)　a．音曲　b．音楽　c．昔学　d．温薬

(3)　a．書く　b．効く　c．記く　d．聞く

(4)　a．瑛語　b．瑛誤　c．英誤　d．英語

(5)　a．勉強　b．勉教　c．便教　d．便強

3．漢字で書いて下さい。

さいきん(1)、だいがく(2)の　しんがくりつ(3)が　さ(4)がりはじめたそうだ。

3.の問題を除いて初級前半の漢字及びかたかなに関する問題であろう。それも自分で書くのではなく、四択の問題になっているので、難易度はかなり低い。3．の問題が一つ8点となっており、全部間違えると70点を切る結果になる。この問題ができるか否かで初歩的な漢字力のみのレベルの者と、もう少し上の力をもつものの判定ができるものと思う。

C．文法の問題は前年度のものと同様

D．作文に関しては採点の基準が難しく、ここでは判定を保留する。

[1991年度　プレースメントテスト結果]

受験者　64名　　漢字圏　34名

非漢字圏　30名

表9　平均得点（%）

	総　合	漢字圏	非漢字圏
表　記	75	83	65
読　解	81	82	80
文　法	42	46	37

表10　「レベル別の人数」

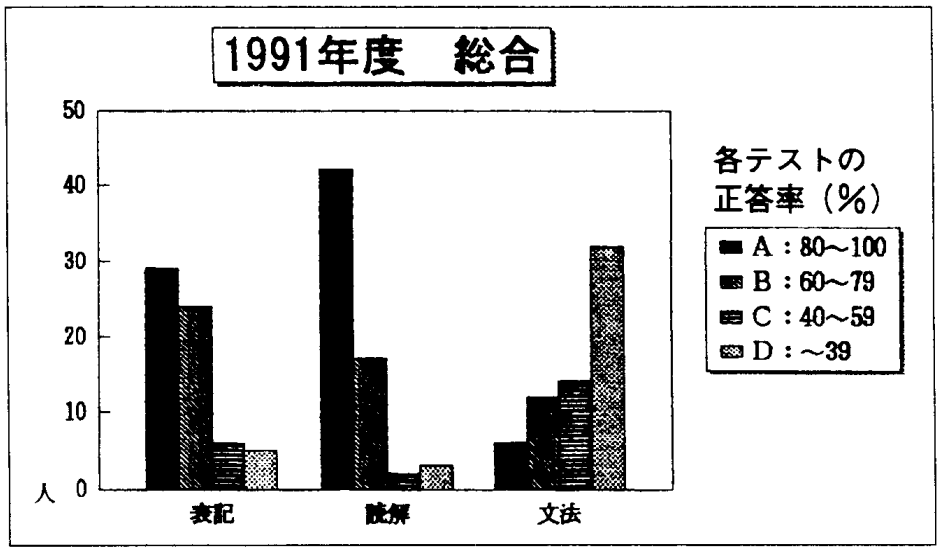
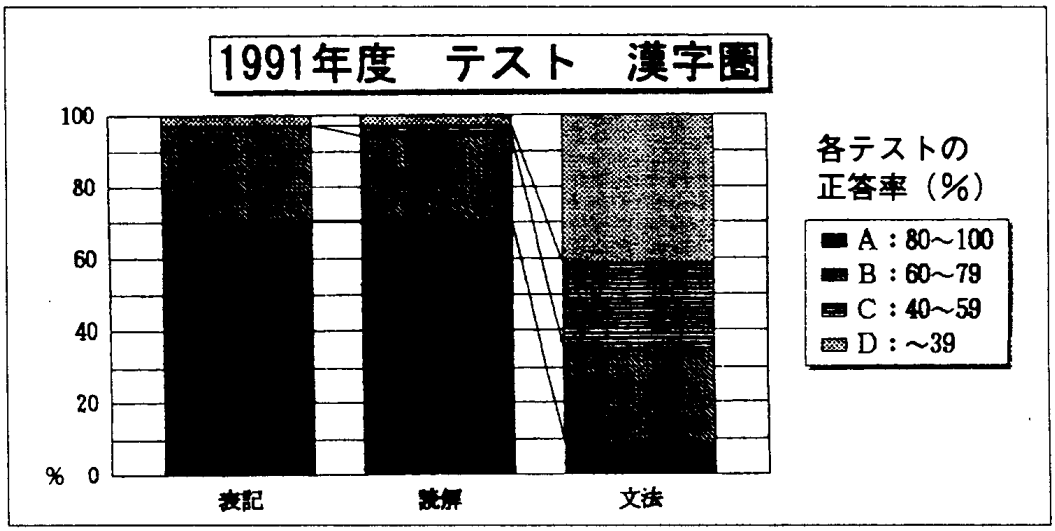


表11　「レベル別の人数の割合」



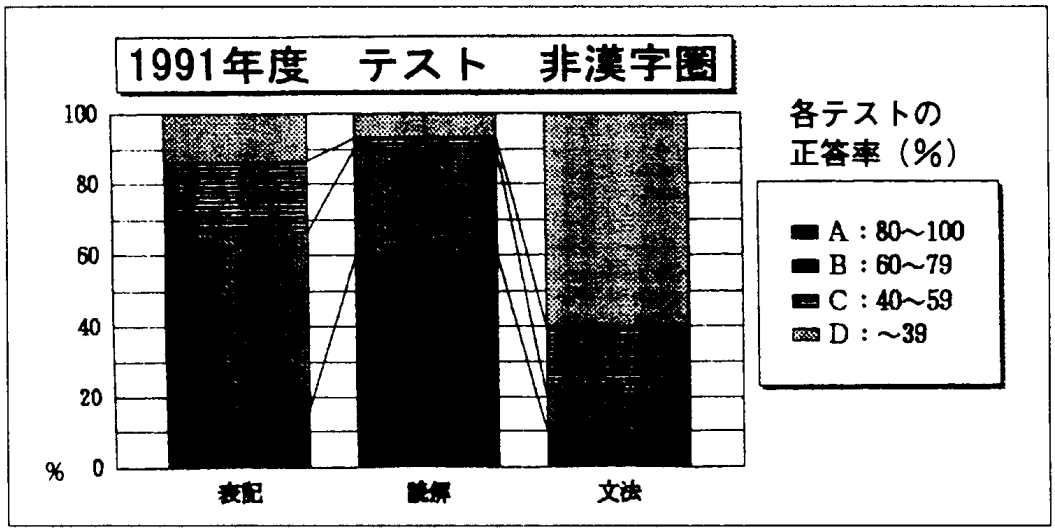


表９から昨年の平均点を比較してみると、読解は問題が初級前期のものに限られたこともあって、平均点が昨年のものに比べて10点上昇している。文法も同じ問題でありながら、10点近く高くなっている。

次に、漢字圏・非漢字圏の平均点を比較してみると、表記に関しては、漢字圏・非漢字圏の差が20点近く開いており、この面での非漢字圏の学生への対策が望まれる。読解・文法に関しては、その差が接近しそれほどの開きをみせていない。1991年度は漢字圏と非漢字圏の学生の読解・文法に関する日本語能力はかなり近接していることが見てとれる。

表10・11を見ると、表記・読解とも先に述べたように初級前期レベルの問題であるので、表記では53人の学生、読解では59人の学生がＡ・Ｂランクに入っている。表記・読解に関しては大部分の学生が初級前期レベルに到達していることが分かる。

文法は昨年同様、ＡからＤランクにいくにつれて人数が上昇している。学生の能力がすべてのレベルに分散化していることが見てとれる。レベル別のクラスを細かく設けることが望まれるであろう。

以上のような学生の現状に鑑みて、1991年度は以下のようなクラス分けの基準を設けている。表記・読解は初級前期の問題ということもあって、高得点の80点までを初級前期とみなしている。また文法に関しては表10･11のＤランクに近い11点（37％）までを初級とみなし、Ｃランクに近い17点（57％）までを中級、それ以上を上級とみなしている。

そして表記・読解・文法、三者の得点の組み合わせによって、以下のようなクラスの決定を試みている。

表12　日本語コースクラス分け　基準　1991.4

表記	読解	文法		クラス		
０～２０	０～２０	０～４	初級	文型・会話Ⅰ	発音・表記Ⅰ	
０～５０	２０～４０	０～４		文型・会話Ⅱ		漢字Ⅰ・Ⅱ
５０～８０	４０～６０	５～８		文型・会話Ⅲ	生活文化Ⅰ・Ⅱ	
６０～８０	６０～８０	８～１１		文型・会話Ⅳ		
８０～１００	８０～１００	１２～１７	中	文型・会話Ⅴ・Ⅵ	生活と文化Ⅲ・Ⅳ	経済日本語ⅠⅡ
８０～１００	８０～１００	１８～３０	中上	総合演習Ⅰ・Ⅱ		

(3) 1992年の読解・文法のテストに関して

1992年のプレースメントテストは昨年度と異なり、読解と文法のみである。

A．読　解

前年同様、問題文を読んで、解答を自分で書く問題である。

a

今12時です。ユンさんは昼ご飯を食べます。スラメットさんはまだ食べません。スラメットさんは1時に食堂に行きます。昨日は日曜日でした。ユンさんは公園に行きました。ユンさんは大学に来ませんでした。

設問　1．「今、何時ですか。」2．「スラメットさんは今昼ご飯を食べますか。」3．「スラメットさんは　いつ食堂に行きますか。」4．「昨日は月曜日でしたか。」5．「ユンさんは昨日大学へ来ましたか。」

b

先週の日曜日にキヨさんは諏訪神社へ行きました。長崎駅まで友達の田中さんと一緒に行きました。田中さんは忙しかったので諏訪神社に行きませんでした。田中さんは地図を書いてあげました。諏訪神社には人が大勢いました。観光客がキヨさんに、「ちょっと写真をとっていただけませんか。」といいました。キヨさんは日本語を読むことができますが、聞くことや話すことがまだよくできません。キヨさんは観光客が何といったのか分かりませんでした。

設問　1．「キヨさんはいつ諏訪神社へ行きましたか。」2．「田中さんはどうして諏訪神社へ行きませんでしたか。」3．「キヨさんは誰に地図を書いてもらいましたか。」4．「キヨさんは日本語を読むことができますか。」5「観光客はキヨさんに写真をとってあげるつもりですか。」

（文中の漢字はすべて振り仮名付き・aには前年同様にローマ字文が付記されている。）

「aの本文の文法項目」

・今～時です。　・～を食べます。　・まだ～ません。　・～は～までです。

・～時に　行きます。　・～は～でした。　・～に行きました。

・～に行きませんでした。

「ｂの本文の文法項目」

・(期日) に～に行きました。・行きませんでした

・～まで　・～といっしょに　　・イ形容詞（カッタ）

・～ので　・ 動詞テ形＋あげました。　・～に～が　いました。

・動詞テ形＋いただけませんか（敬語の可能形を用いた依頼表現）

・「　」と言いました。

・～することができます。・できません　・～か　分かりません。

設問部分に・動詞辞書形＋つもり

ａのものは初級前半の文法項目のみ。ｂには昨年度と少し違って、ので・つもり・～て　いただけませんか、等の初級後半の表現がはいりこんで多少難かしくなっている。

ｂ．文　法

四択の形式に変わりはないが、問題は一新されている。

Ⅰ．正しいものを選んで（　　）の中に数字を書いて下さい。

1．それは　なん（　　）りょうりですか。

選択肢　1．が　　2．に　　3．は　　4．の

2．きのう　わたしは　サリムさん（　　）レストランへ　行きました。

1．を　　2．に　　3．と　　4．が

（1・2共に初級初期の助詞の問題）

3．そのりんごを（　　）ください。

1．さんぼん　2．さんまい　3．みっつ　4．みっか

（助数詞の問題・初級初期）

4．わたしは（　　）日本へ　きました。

1．きょねん　2．きょね　3．きょうね　　4．きょうねん

5．ながさきえきの　まえで　でんしゃに（　　）ください。

1．のんで　2．のって　3．のて　4．のりて

（5・6とも表記の問題も兼ねるのではないか。「きょうねん」や「のて」と書く学生は少なくない・初級初期）

6．A：どんな　カメラが　いいですか。

B：（　　）やすいのがいいです。

1．小さくて　2．小さいで　3．小さいの　4．小さいです

（イ形容詞を連続させる場合の活用の知識を問う問題・初級初期）

7．だいがくへ（　　）ですが、なんばんのでんしゃにのればいいですか。

1．いった　2．いきますほしい　3．いきたいん　4．いく

（自分の意志や要求を述べる時の「～んですが」の知識を問う問題・初級前期）

8．このワープロはデザインも（　　）性能もいい。

1．いいのに　2．いいと　3．いいし　4．よいと

（原因や理由を述べる時の「し」の知識を問う問題・初級中～後期）

9．キムさんは　ちゅうごくごを（　　）ことができますか。

1．はなします　2．はなされる　3．はなせる　4．はなす

（動詞の可能表現の知識を問う問題　・初級中期）

10．あの　めがねを（　　）ひとは　にほんごの　せんせいです。

1．かぶる　2．かけている　3．かぶっている　4．かける

（状態の「ている」の知識を問う問題・初級中期）

11．きのう（　　）のはだれですか。

1．こなかった　2．きなかった　3．くるなかった　4．こないかった

（動詞の普通形（過去の否定）の知識を問う問題・初級中期）

12．東京に（　　）前に　友だちに　電話して　おきました。

1．行った　2．行かない　3．行くの　4．行く

（「動詞辞書形＋前に」、「動詞タ形＋後で」の知識を問う問題・初級前期）

13．つかれた（　　）は、早く寝たほうがいいですよ。

1．とき　2．ところ　3．まえ　4．あいだ

14．もしあした雨が（　　）、海には　行きません。

1．ふると　2．ふったから　3．ふったら　4．ふるから

（「と」をもちいた条件文の後に意志の表現がこないという知識を問う問題・初級後期）

15．先生、私が　書いた作文を（　　）。

1．なおしたいですか　2．なおしていただけませんか

3．なおしてあげてもいいですか　4．なおしますください

（「～ていただけませんか。」が丁寧な依頼表現であることの知識を問う問題・初級後期）

16．道路がこんで車が動かないと（　　）します。

1．くらくら　2．きりきり　3．からから　4．いらいら

（副詞の意味を問う問題・初級後期～中級）

17. この　ラジオは（　　）古いですね。

1．たくさん　2．あまり　3．かなり　4．いっぱい

（副詞の意味を問う問題）

18. 長崎は住み（　　）ところです。

1．やすい　2．やさしい　3．ます　4．ました

（「動詞マス形＋やすい」の意味の理解を問う問題・初級後期）

19. この本は（　　）と思います。

1．おもしろいだ　2．おもしろいです　3．おもしろくて

4．おもしろい

（引用の「と」の前には普通形がくるという知識を問う問題・初級中期～後期）

20. 雨は　なかなか（　　）。

1．やみそうです　2．やみそうもありません　3．やむそうです

4．やむそうかもしれません

（様体の「そうです」の否定形の知識を問う問題・初級後期）

21. 最近の技術の進歩は（　　）ですね。

1．まざましい　2．めずらしい　3．いい　4．いそぎ

（形容詞の意味を問う問題・中級）

22. あなたの国と日本とどちらが暑いですか。

1．日本が一番暑いです。　2．私の国は暑くないです。

3．日本のほうが暑いです。　4．日本より暑いです。

（比較の問題・初級中期）

23. （　　）、あの人は遊んでばかりいます。

1．試験があるから　　2．試験があるので

3．試験があるには　　4．試験があるのに

（逆説の「のに」の用法の理解を問う問題・初級後期）

24. A：リーさんはまだですか。

B：ええ、（　　）、まだ来ていません。

1．10時に集まれば　　2．10時に集まるはずなのに

3．10時に集まる前に　　4．10時に集まることですから

（事実や資料から推定する「はず」の用法の理解を問う問題・初級後期）

25. 先生にもっと勉強するように（　　）。

1．言われました　　2．言えました

3．言わされました　　4．言いられました

（受身、使役の意味と用法の理解を問う問題・初級後期）

26. あの人はいつもみんなを（　　）。

1．困られます　2．困らせます　3．困ります　4．困らせられます

（受身・使役の意味と用法の理解を問う問題・初級後期）

27. 林さんはどんな本を（　　）。

1．お読みになりますか　　2．お読みいたしますか

3．お読みしますか　　4．お読みますか

（敬語表現の理解を問う問題・初級後期）

28. A：日本語は難しいですか。

B：いいえ、（　　）簡単ですよ。

1．思ったほど　　2．思ってから

3．思っていたより　　4．思ったより

（？3・4の両方が入るのではないか。）

29.「コントロールする」というのは（　　）。

1．どれの意味ですか　2．どういう意味ですか

3．どうの意味ですか　4．どの意味ですか

（疑問詞の意味の理解を問う問題・「どうゆう」は、初級後期の学習事項）

30. A：すみません。としょかんはどこでしょうか。

B：あそこに白いたてものが（　　）。

あれがとしょかんです。

1．見ていますね　2．見られますね　3．見えますね　4．見ますね

（目に入るという意味の「見える」と可能形の区別の問題・初級後期）

31. A：あらもう帰るの

B：うん、ちょっと頭が痛いから。帰って休もうとおもって。

1．どうしたか。　2．どうなさったんですか。　3．どうですか。

4．どうしたの。

（敬語表現「～なさる」の意味の理解を問う問題・初級後期）

32. 東京では毎日（　　）地下鉄を利用している。

1．多い人が　2．多いの人が　3．多い人々が　4．多くの人が

（イ形容詞「多い」の活用の特殊性の理解を問う問題　普通のイ形容詞は「～イ」の形で名詞を修飾するが「多い」は「多くの」の形になる・中級）

33. 風速30メートルの風なんて、(　　)。

1．めったにあるものですよ　2．めったにあるものじゃありませんよ

3．たまにあるものじゃありませんよ　4．たまにありませんよ

（副詞「めったに」の意味と、共起する文末表現の理解を問う問題・中級）

34. A：すみません。このバスは空港に行きますか。

B：ええと、すみません、(　　) わかりません。

A：そうですか。どうも。

1．ちょっと　2．少し　3．たいへん　4．非常に

（ちょっとが「少し」の意味と違う、「簡単には～できない」の意味であるという理解を問う問題・中級）

35. 夏休みにどこへ (　　)、まだ決めていません。

1．行くことについて　2．行くか

3．行くかどうか　4．行くことを

（「疑問詞（どこ）＋動詞辞書形＋か」の形の理解を問う問題・初級中～後期）

36. 毎日少しずつ練習しているうちに、漢字が (　　)。

1．書けるようになりました　2．書けることになりました

3．書けるようにしました　4．書けることにしました

（1991年「文法」13番　参照・初級中期）

37. A：(　　)。

B：まだ、3か月です。

1．どのくらい日本に来ましたか　2．日本に来た後で、何か月ですか

3．日本に来てどのくらいになりますか　4．何か月日本にきてますか

（1991年「文法」21番・参照・中級）

38. たばこは体に悪いと知りながら (　　)。

1．吸っています　2．吸いません　3．吸わないことです

4．吸ったらどうですか

（1991年「文法」24番参照・中級）

39. 私は医学の研究を (　　) 日本に来ました。

1．するに　2．するために　3．するように　4．するで

40. 冷蔵庫に入れた（　　）安全とは限らない。

1．からといって　2．のであって　3．のであるからには

4．ければ

（1991年「文法」25番参照・中級）

41. やり方が（　　）、留学生センターに聞いて下さい。

1．分からないので　2．分からなくては

3．分からない場合には　4．分かるという事情では

（「場合」の意味を問う問題・中級）

42. 機械化が（　　）、新しい問題がでてきた。

1．進むので　2．進みましたら　3．進む後で　4．進むにつれて

（文中表現「～につれて」の意味の理解を問う問題・中級）

43. 水は酸素1（　　）水素2の割合で化合したものである。

1．にとって　2．によって　3．に対して　4．に比べて

（文中表現「に対しての」意味の理解を問う問題・中級）

44. 拝啓　寒い日が続いておりますが、お元気で（　　）ことと存じます。

1．いらっしゃる　2．います　3．おります　4．おいでです

（敬語表現「いらっしゃる」の意味の理解を問う問題・初級後期）

45. 植林して砂漠を（　　）。

1．乾燥する　2．回復する　3．緑化する　4．変化する

（動詞の意味の理解を問う問題・中級）

Ⅱ．同じ意味の文はどれですか。数字を書いてください。

1．このコンピューターをつかってもいいですよ。（　　）

1．このコンピューターをつかうことはいいことです。

2．このコンピューターをつかわなければいけません。

3．このコンピューターをつかってください。

4．このコンピューターつかうことができます。

（五つの文末表現のニュアンスの違いが理解できるかの問題・初級後期）

2．このじしょはわたしのいもうとが先生にいただいたものです。（　　）

1．いもうとは先生にじしょをあげました。

2．わたしは先生にじしょをもらいました。

3．先生はわたしのいもうとにじしょをくれました。

4．わたしのじしょをいもうとは先生にあげました。

（1991年「文法」27番　参照・初級後期）

3．かさを持ってくればよかったですね。

1．かさを持ってきたのはいいことです。

2．かさを持ってきませんでした。困りました。

3．かさを持ってきてもよかった。

4．かさを持ってきてください。

（「～ばよかった」は実際には行為が成立しなかったことに対する後悔の表現であるという事項の理解を問う問題・初級後期）

4．工場の中を見学させていただければうれしいんですが。（　　）

1．工場の中を見ることができてうれしいです。

2．工場の中を見学させてもらえませんか。

3．工場の中を見学できないので悲しいです。

4．工場の中を見学できません。困りました。

（「させていただく」が謙譲語を用いた意志の表現であり、その可能性を相手に問うているので大変丁寧な依頼の表現になる、という理解ができるかを問う問題・中級）

5．山下さんほど親切な人はいないと思います。

1．山下さんはとても親切な人だと思います。

2．山下さんはあまり親切ではないと思います。

3．山下さんのほかに親切な人はいません。

4．あの親切な山下さんはもういません。

（「Aほど～は～ない」がAが最上級であるという意味であるということの理解を問う問題・中級）

以上の1992年度の文法の問題を前年度のものと比較してみる。まず第一に問題数が30問から50問に増加している。次に、漢字の文の占める割合がかなり減って、50問中の20問までは、ほとんど漢字の抵抗がなく読める文であり、全体の難易度は低下しているといえる。問題は初級初期から後期、中級レベルに渡って出題されており、問題の難易度から考えて1問～36問までを初級（文法Ⅰとする）・37問から50問までを中級（文法Ⅱとする）程度の問題と考えて区分してみた。

［1992年度のプレースメントテストの結果］

受験者　67名　　漢字圏　32名

非漢字圏　35名

表13　平均得点（%）

	総　合	漢字圏	非漢字圏
読　　解	76	82	70
（文 法 Ⅰ）	59	75	43
（文 法 Ⅱ）	31	38	23
文法総合	45	56	33

表14　「レベル別の人数」

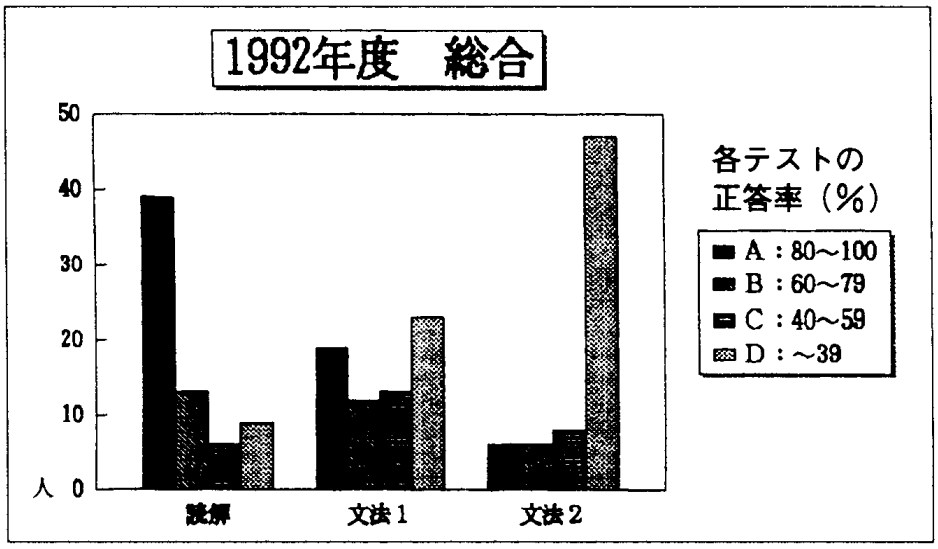
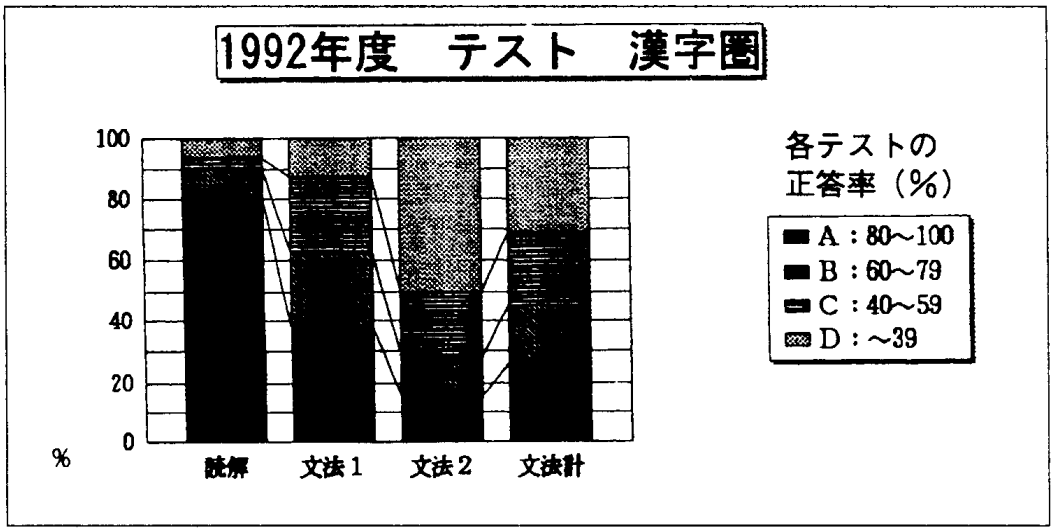


表15　「レベル別の人数の割合」



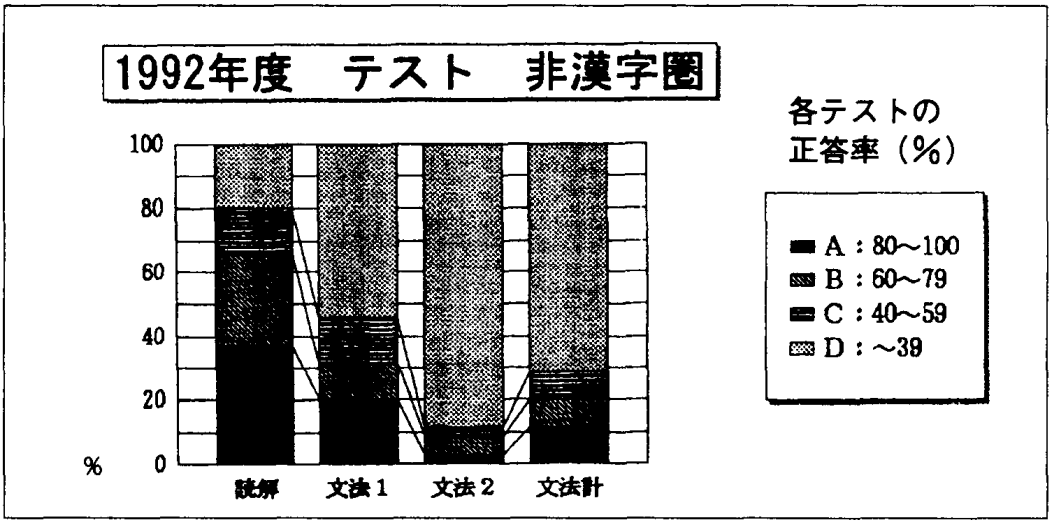


表13の平均点を昨年のものと比較してみると、読解に関しては、平均点が多少下がっていることがわかる。先に指摘したように少し難易度が上昇したことにも原因するのであろう。文法の総合点は余り変わらない。

次に漢字圏と非漢字圏の平均点を比較してみると、前年度は読解・文法に関しては、かなり近接していたのであるが、1992年度ものをみると、また点差が増大している。読解の平均点で10点以上、文法にいたっては20以上の差がある。

表14を見ると、文法Ｉ（初級全般）に関しては、グラフが凹型になっており、初級の文法項目に関して高い理解を示すものと、理解の大変低いものとの両極にわかれていることが見て取れる。表15の文法Ｉのグラフを見ると非漢字圏の学生のものにこのような特徴が見られ、当該年度の非漢字圏の学生は初級文法に関しては能力の高い者と低い者に両極化されているといってよいであろう。つまり、初級の初歩の対応の必要な学生と中級の学習に応じられる学生に偏在して存在しているものと思われる。

当該年度は前年度のようにクラス分けの分類基準をしめした資料は存在してない。時間割は以下のように編成されている。

1992年度　前期　　表 16

	月	火	水	木	金	
8：50	文型・会話 I	文型・会話 II		文型・会話 I	文型・会話 II	
10：20						
10：30	発音・表記 I	文型・会話 III	作文 I		文型・会話 III	専門日本語（経済）I
12：00						
12：50	文型・会話 IV	日本語個別指導		文型・会話 IV	漢字 I	日本語個別指導
2：20						
2：30	文型・会話 V	日本語個別指導	生活と文化 I	文型・会話 V	作文 III	日本語個別指導
4：00						
4：10	総合演習 I			基礎演習 I		
5：40						

(4)　1995年度のプレースメントテストに関して

問題の記載に関しては今年度の施行ということもあって、差し控える。本年度に関しては、問題内容の概略とその結果を記すにとどめる。

1995年度のテストは、読解と表記のみである。

1．テスト内容の概略

(1)　読　解

読解に関しては今までのものと違って、テストの配点100点を各レベルに応じて三段階に区分し、各々の得点を明記している。

	レベル	問題数	配点
文法Ⅰ	初級前期程度	15	30
文法Ⅱ	初級中期程度	15	30
文法Ⅲ	初級後期程度	15	30
文法Ⅳ	中級	5	10

(2) 表　記

・漢字を書く　　・漢字にふりがなを振る

・助詞のまるうめ　・漢字の読みを兼ねた文の完成問題

2．プレースメントテストの結果

表17

(%)

	総合	漢字圏	非漢字圏
(文 法 Ⅰ)	79	86	72
(文 法 Ⅱ)	73	82	63
(文 法 Ⅲ)	56	73	40
(文 法 Ⅳ)	48	69	27
文法総合	67	80	55

(表記に関しては採点基準が今一つ明確でなく、検討の対象とすることをしない。)

表18　「レベル別の人数」

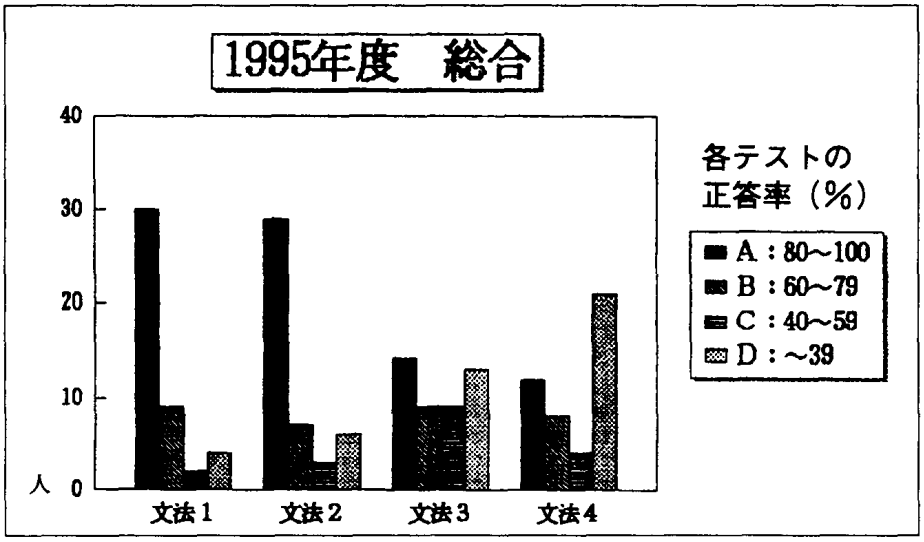
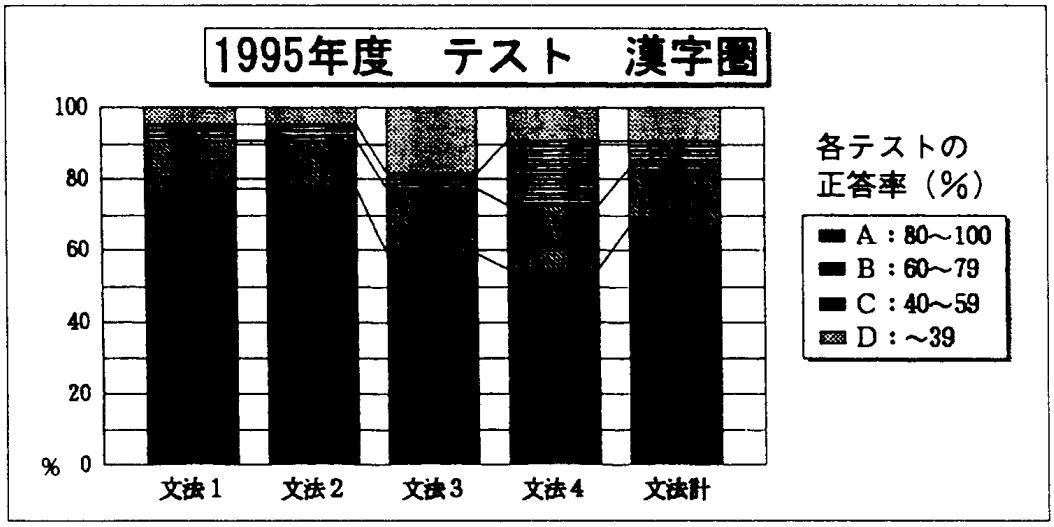
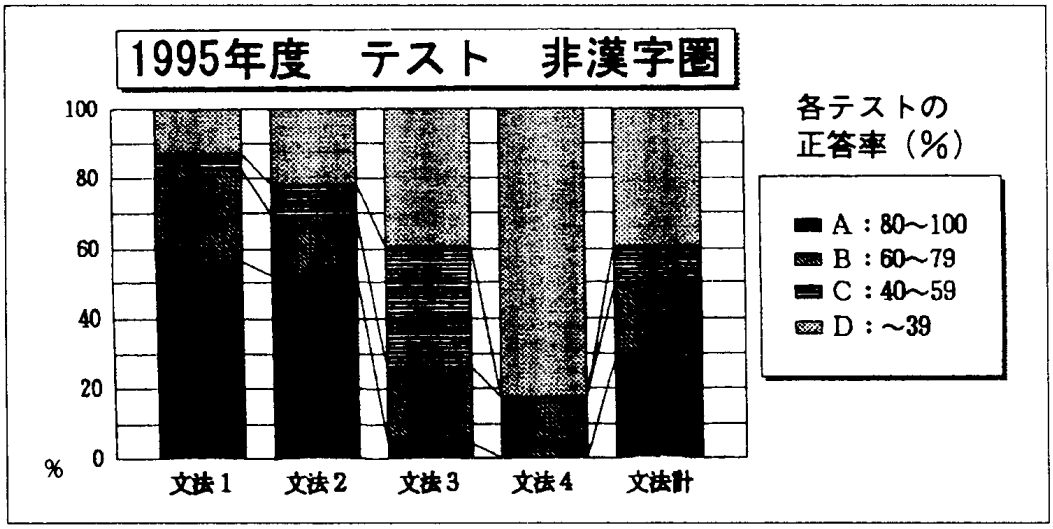


表19　「レベル別の人数の割合」





まず表17を見ると（文法Ⅰ）に関しては、漢字圏・非漢字圏の平均点の差は14点であるが、（文法Ⅱ）（文法Ⅲ）と進むにつれてその差は拡大し（文法Ⅳ）にいたっては42点もの開きをみせている。表19を見てもわかるように漢字圏の学生は文法の中級段階までの力をかなりの学生がもっている。それに比べて非漢字圏の学生の初級後期から中級の能力の不足が見てとれる。非漢字圏については、特に初級後期及び中級段階からの対策が望まれる。

またクラス分けをするに際して、今年度のものは、上記のように各学習段階に応じて問題が区分してあるので、大変便利である。クラス編成は以下のようなものとなっている。

表20

１９９５年度（ねんど）前期（ぜんき）時間割（じかんわり） Time table for the First Semester, 1995

	月（げつ）Mon.	火（か）Tues.	水（すい）Wed.	木（もく）Thur.	金（きん）Fri.
8:50 I 10:20	にほんご 日本語Ⅰ Japanese Ⅰ		にゅうもん 日本語入門A IntroductionA		にほんご 日本語Ⅱ Japanese Ⅱ
10:30 II 12:00	コミュニケーションスキル Ⅰ Comunication Skill Ⅰ	ぶんしょうひょうげん 文章表現Ⅰ Composition in Daily Life Ⅰ	せんもんにほんご 専門日本語A－1 Comprehension for Specific Field A-1	せいかつとぶんか 日本の生活と文化Ⅰ Life & Culture in Japan Ⅰ	しゃかいとぶんか 日本の社会と文化Ⅰ An Introduction to Japanology Ⅰ
12:50 III 14:20	にほんご 日本語Ⅲ Japanese Ⅲ	かんじ 漢字Ⅰ Kanji Elementary Ⅰ	ひょうきほう 表記法Ⅰ Japanese Writing System Ⅰ	にほんご 日本語Ⅱ Japanese Ⅱ	にゅうもん 日本語入門B IntroductionB
14:30 IV 16:00	どっかいえんしゅう 読解演習Ⅰ Reading Comprehension Ⅰ	せんもんにほんご 専門日本語B－1 A Trial in WritingScientific Papers B-1	にほんご 日本語Ⅲ Japanese Ⅲ	にほんご 日本語Ⅰ Japanese Ⅰ	にほんごさくぶん 日本語作文Ⅰ Composition Elementary Ⅰ

おわりに

過去四年間のプレースメントテストの結果を通じて、日本語能力各領域での学習者の能力レベルとその分布を考察してきた。その結果として言えることとは漢字圏・非漢字圏の両者には、特に初級文法の後期のあたりから日本語能力にかなりの差が見られるということである。その原因は、文法知識の問題だけによるものではないと思う。これは現段階では推測にすぎないのであるが、漢字を中心とした表記の問題であったり、獲得語彙の数に関係する問題なのではないか。今後はその原因を明確にさせるような、もう少し意識化したテストのつくりかたが望まれると思う。例えば1991年度に施行されたような表記のテストをもう一度検討して、復活させるとか、語彙に関してレベルの検討できる問題をつくるとか。文法に偏ったテストの現状を、表記・語彙等の領域が検討できる広範囲なものに改革する必要があると思う。

次に本年度の文法のように、各レベル別の問題を分けて編集し、混在させないことが必要であると思う。これは採点基準の明確化につながると思う。

そして最後に1991年度に試みられたような、各テストを組み合わせてのクラス分け基準の試案をつくり、毎年検討を繰り返していくことが必要と思われる。これは、四年間のテストを見ての感想であるが、ことテスト領域の決定においては一貫性がみられなかった。ある年度は読解・文法のみであったり、ある年度は表記・読解・文法・作文に及んだり、また次の年度は読解・文法の二つにもどったりということが見られた。1991年度のクラス分け基準の試案についても、引き継いで検討を加えたという形跡はない。テストの形式にしても、クラス分け基準の試案にしても、現状の分析に則して形式をつくり、それを次年度において再検討しながら引き継いでゆく姿勢が肝要ではないだろうか。

（最後に資料の保存状態の関係で、年度の特定できない学生に関しては、センターの小山さんに調査を頼み、貴重な時間を割いていただきました。ここに深く感謝いたします。）

＜注＞

（注１）志柿　光浩（1993）「大学受け入れ後の日本語教育」『長崎大学留学生指導センター年報」 51Pより

（注２）前掲書　49Pより

（注３）日本語教育学会編（1991）『日本語テストハンドブック』大修館書店　243Pより

（注４）前掲書　251P～255Pより

（注５）前掲書　251Pより

（注６）初級の前期・中期・後期等の区分に関しては、日本語教育機関において、使用度の高い教科書である『新日本語の基礎』（海外技術者研修協会編）によって区分を試みた。また中級に関しては『日本後教育機関におけるコースデザイン』（日本語学会編）を参考にして分類した。

（注７）前件ー条件を表す節
後件ー帰結を表す節・主節（1980年）『日本語の文法』 国立国語研究所　67Pより

（増倉洋子・外国人留学生指導センター日本語コース委託講師・
筑紫女学園大学非常勤講師）

後記・雑記

—— 近年の外国人留学生指導センターを振り返って ——

1．はじめに

学内措置で設置された長崎大学の外国人留学生指導センターも既に約10年の月日が経った。間もなく当センターもその過渡的な役割を終えるはずである。そして、平成に年号が変わった直後に初代の専任教官が赴任して始まった、日本語コースの関係資料もこのままでは戸棚の隅に埋もれて、いずれは忘れ去られるか捨て去られるかしかないように思えた。というのは、初期の関係者が既に長崎の地を離れており、入れ替わりに赴任してきた者もやはりもう長崎にいないためである。

しかし、そうなることは少なくとも二つの意味で残念である。無論、一つは長崎大学の研究留学生の日本語学習に関する貴重なデータが生かされないことであり、もう一つは教室は勿論、専任教官の居場所もまともにないような状態から立ち上げてきた初期の関係者の努力と苦労が無に帰すような気がしたからである。そこで、最近になってから非常勤として講師陣に加わっていただいた増倉先生にお願いして、御覧のような題名で報告書を作っていただいた。

ところで、この種の報告は本来なら外国人留学生指導センター時代の最後の時期に専任教官として唯一人残った筆者が書くべきものである。しかし、専任教官とは言え、この条件は（後から赴任してきた）筆者もほとんど同じである。そこで、敢えて増倉先生にお願いして引き受けていただいたしだいである。従って、筆者以上に過去の経緯や当センターの置かれている事情に疎いのはある意味では仕方のないところである。また、それが本編中に時折見られるやや客観的に過ぎるきらいのある記述の見える理由である。

例えば、169ページには、「プレースメントテスト領域の決定に一貫性が見られなかった・・・・・」等々の旨の記載があるが、（諸事情あって）現実に専任教官が重複期間を持たないで交替するような事態が起こったのだから「次年度において再検討しながら引き継いでゆく姿勢」など取れるはずがな

いこと、また諸部局の連合体である国立大学には学内に在籍する研究留学生の日本語学習について統一的な確固たる方針は立て難いこと、言い換えれば当センターの日本語コースに要求されるものが教育なのかサービスなのかといった類いのことが（全体の議論を経た上で）はっきりと示されない限り、試行錯誤するしかないことに対する理解が欠けていることなどである。従って、1993年度から1995年度まで基本的には同じプレースメントテストを使ったこと、1995年は（166ページの表18の直前で、採点基準が不明確だと指摘された）中級以上用のプレースメントテストを導入し、面接を兼ねた口頭能力試験を併用重視していることなどがあまり評価されていないのは、その観点から理解可能である。

ただ、基本的にはこれは（例えば、大学の学部レベルに入学を目指す比較的高水準の外国人学生に対する日本語教育の経験がやや長いといった類の）分析者個人の気質のせいではないように筆者は思う。なにしろ、初級レベル程度の日本語学習を望む留学生が多いことや学部によって日本語の必要性がかなり異なっていることなどは、言葉による説明を少々受けたくらいではなかなか理解しがたいからである。そして、この点が当センターの一貫した中心課題の一つであった。要するに、留学生自身の日本語学習の必要性に対する意識の多様さに加えて、留学生の指導教官側と現場の講師陣側の日本語教育に対する意識のずれを、現実には互いにほとんど認識できていなかったのである。そして、筆者の知る最近の傾向だけに話を限れば（無論、例外はあるが）概ね次のように言える。即ち、指導教官側は「サービス」を主に期待する場合が大勢なのに対し、講師側は「教育」を貫徹しようとすると。（尚、用語は極く一般的な意味で使っている。）

勿論、この結果が直ちに表面にでるような大問題の発生に繋がるわけではない。だが、留学生側にも指導教官側にも講師側にも対象のはっきりしない不満が常時心の内に燻ることになるから、時に対象をやや強引に探しあてた場合には不信感に変わることも自然の成り行きである。4月になって、巻頭の『発刊の辞』にあるような留学生センターが設立され、長崎大学内の留学生に対する日本語コースがそこでも行なわれることになった場合には、この種のことは解消されるよう期待している。

尚、先に「プレースメントテスト」に関連して話があったセンターの方針の一貫性について、誤解を避けるため少し補足しておこう。例えば、表8や

表16は当時、毎年発行されていた日本語コース受講者用の立派な装丁の案内冊子から取ったものであり、これ以外にも『留学生の生活案内』（英語版、中国語版：計三種）というかなり大部の冊子の発行や数ヶ国語によるトイレの使用案内板まであって、初期の教官たちの留学生教育にかけた情熱が感じられる。その内、広報紙『めがね橋』は発刊理由の引継ぎもなく現在は休刊状態にあるが、『留学生の生活案内』は長崎地域留学生交流推進会議発行の『留学生のための長崎の生活ガイド』（監修者は筆者）にかなり部分がほぼそっくり引き継がれている。また、他のことでも初期の精神はできる限り受け継いだつもりである。ただ、大学にとっての未成熟の分野である留学生教育関係業務は現在までのような小規模の学内措置である限り、専任教官を始めとする中心スタッフの交替と伴に know-how も消えてゆくのは避けられないことである。このことは好悪とは関係の無い現実なのにも拘らず、なかなか理解が得られないのは残念なことである。そして、更に言えば、変更したいところはほとんど適わず、望まないものでもそうするように迫られる場面が少なくなかったというのも偽らざる実感であった。しかも、その間、留学生数は急増を続け、未解決の問題点は重大性を増し続けたのである。そんな中での研究者予備軍に対する対応であった。

2．平成7年度「センター講演会」

平成7年、暑さも盛りの7月下旬、当長崎大学外国人留学生指導センターでは遠来の講師2名をお招きして、「留学生教育の理念と組織化について」というテーマで学術講演会を実施した。既に夏休みに入った木曜日の午後という時間帯にも拘らず、新聞の地方欄に「長崎大学が留学生センターの設置を見込んでいる」旨の報道が載った後でもあったためか、本学の学生部長や非常勤の講師の方々以外にも、近隣の高等教育諸機関で実際に留学生教育に係わっておられる諸先生や国際交流担当の事務部門の方々の多数の御出席をいただいて、当センターの研修室で行なわれた。また、当日は日本語図書の出版社の大阪支店の御好意で、講演会に先立つ時間帯から改修完成後半年余の留学生相談室で展示会を開催され、講演会に華を添えていただいた。感謝するしだいである。

講演の方は質疑応答が熱を帯びたこともあってか予定時間をかなり越え、結局2人の講演者で実質4時間ほどを要した。最初の講演者は東北大学言語

文化部の志柿光浩助教授で、主にアメリカ合衆国の留学生受け入れ制度を、長崎大学で活かすにはどういう観点の議論が必要なのかということが中心であった。また、2人目の講演者は東京大学留学生センターの宮原彬教授で、東京大学を始めとする日本の国立大学の留学生受け入れ体制の紹介が中心であった。要するに、志柿先生には主に「理念」、宮原先生には主に「現実・現状」についての話をしてくださったわけである。

そこでの質疑応答を通じ鮮明になった点は、(筆者の観察した限りでは)凡そ次のようなことであった。即ち、理科系の大学院を中心に在籍している非西欧諸国からの研究留学生は、所謂「日本文化」に馴染むために来ている欧米からの学生とは大きな違いがあって、日本語教育を担当する講師の多くは英語を始めとする欧州系言語との対照で学習・研修を受けているためか、眼前の現実に必ずしも的確に対応しきれていないかもしれないということである。尤も、それは専攻課程の指導教官も基本的には同じであって、曾ての欧米への留学経験や研究滞在経験をほとんど唯一の拠り所にしているのである。つまり、表面的には研究留学生に日本語能力試験の1級の資格の取得が課せられている場合に初めて可能になるような類いの議論が多く見られて、やっぱり眼前の事態の解決にはほとんどならないという気がした。(尤も、これは筆者の単なる印象という面もある。)

また、議論からはもう一つのことが浮かび上がった。つまり、元来留学生を大量に受け入れる制度を備えていなかった国立大学は、国家の政策で急激に大量に留学生が流入する事態を前にしても、たやすく適応することは難しいらしいということである。それは、参加者の中にいた私立大学の教官から主に出された疑問や疑念によって実感した。つまり、国立大学では担当者の意識が変わったくらいでは目に見えるほどの効果は期待できない、小回りが効かないらしいのである。従って、長崎大学の現状に対する原因を探る行為がともすれば、「誰々が先ず～すべきだ」という所謂「べき」論に終始する形の、責任の押しつけ合いとでも言う方向に行く傾向にあった。結局のところ、それは大学も日本の一部であって、大学だけが変わることを期待するのは難しいということを意味していると受け留めた。どうやら、現行の大学の国際化問題は、日本の国際化と歩調を合わせることによってしか進展しないようである。要するに、時が流れ、世代が交替するのを待つという、ここ数千年来繰り返されてきた伝統的な方法で解決されることになるのであろう。

3．日本語コース受講者について

学生部の資料に依れば、平成8年2月1日現在、長崎大学に在籍する外国人留学生の総数は237名で、男性168名、女性69名であるから、ほぼ7：3の比率である。内訳は学部学生が52名、大学院学生が118名、研究生・科目等履修生が66名、特別研究学生・特別聴講学生が1名である。これを留学費用の供給元という観点から見ると、国費（日本の文部省）が96（男：75／女：21）名、派遣国（マレーシア等）政府が10（男：7／女：3）名、私費等のその他（以下、私費等と略称）が131（男：86／女：45）名である。また、相手国政府派遣は全員が学部留学生で、文部省奨学生は学部が1名、大学院が61名、研究生（大半はこの4月から大学院に入学）が32名である。従って、大学院生も研究生も文部省の奨学生と私費留学生がほぼ同数である。（実際には私費等の方がやや少ない。）尚、1名の聴講生は私費等である。

では、出身国はどうであろうか。ここのところ大きな変化はないようである。最多が中国の108名、これに韓国の23名、バングラデシュの16名、マレーシアの14名、インドネシアの13名、台湾（中華民国）の10名と続き、ここまでが2桁の数を送り込んでいる国々で、その数は184名に達し、これにフィリピンの6名を加えれば、全数の80％となる。後は、ミャンマーとタンザニアが各4名、ブラジルとタイとインドとパキスタンが各3名、そして2名の国がボリビア、エジプト、グァテマラ、ヨルダン、メキシコ、ペルー、ザンビアと続く。後は、1名の国が13で、アルゼンチン、カンボジア、チリ、エチオピア、カザフスタン、ケニア、ネパール、パラグァイ、ロシア、スリランカ、シンガポール、チュニジア、ベトナムである。

すこし特徴を拾ってみよう。マレーシアは全員が学部生であり、日本国費が1名、私費等が5名、自国政府費が8名である。また、女子学生の比率が低い国は、バンクラデシュ（16名中2名）とインドネシア（13名中1名）である。中国は私費の学生が多く、108名中約80％を占める。だが、実際には24名が日本の国費を受けており、台湾の0名と比べれば勿論のこと、国別で第2位のバングラデシュ（13名）の約2倍、第3位のインドネシア（7名）の約3倍半とかなりな数であり、比率でも韓国（23名中の5名）とほぼ同じである。尚、逆に日本の国費の率が高いのは、バングラデシュとインドネシアで、総数が10名以下の国はフィリピン、タイ、ミャンマーの100％を始めとして、基本的には何らかの公的性格の奨学金を得て留学生活を送っている

ようだ。

次に、母語ないし教育言語の分布を見てみよう。極く常識的な計算では、漢語（中国語）圏が118名でちょうど50%、それに韓国を加えた漢字圏では６割（141名）となる。だが、従来当センターで実施してきた日本語コースの実質的な対象者である研究留学生（大学院生＋研究生）に限った方が現実的である。だが、その際でも結果はほぼ同じで、185名中94名の約半分が漢語（中国語）圏、109名（約６割）が漢字圏である。これに続くのが、ベンガリー語（インドの一部とバングラデシュ）の10%弱、インドネシア＝マレー語の５％である。また、中南米は11名（内、ブラジルは３名）だからスペイン語圏は広く解釈しても６％に過ぎないし、アラビア語圏は５名の３％、ロシア語圏も２名の１％である。また、実際には、非漢字圏からの留学生には全くの私費等が少ないようで、そのことからも解るように（インド亜大陸やフィリピンや東部や南部のアフリカなどの様な英語圏でなくとも）日本語の初級レベルの教育に媒介言語として使う程度の英語のできない学生は極めて少ないようである。（尤も、専門専攻課程での研究に耐えられる英語のレベルに達していないという評価は指導教官から聞くが、筆者の知る限り、例えばアラビア語圏、インドネシアや東南アジアの一部、ロシア語圏の一部などに限られているようである。）似た事情にあるのが、韓国人留学生と漢字圏の関係で、公式には韓国では漢字は使われていないと聞くが、当センターの日本語コース受講者は漢字圏に入れることに躊躇は要らない。少なくとも、現在まではそうである。

そのため、よく言われるような日本語教育における漢字圏と非漢字圏での基本的な違いは、当センターでの日本語コースに関しては漢字圏と（拡大）英語圏に分けるという形で推奨・容認される。ただ、今までは物理的な条件のために、初級・中級のクラスを漢字圏と非漢字圏（広義の英語圏）に分ける余裕は無かったに過ぎず、学内における当センターの機能が変化するなどして事情が変わればその方向に進んだ方がいいように思う。

では、以上で終わる。尚、国別の学生数は稿末に表を掲載した。

（鹿島英一・外国人留学生指導センター助教授）

（1996年２月）

長　崎　大　学　外　国

区分 ＼ 出身国・地域等		アルゼンチン	バングラデシュ	ボリビア	ブラジル	カンボジア	チリ	中国	中国（台湾）	エジプト	エチオピア	グアテマラ	インド	インドネシア	ヨルダン	カザフスタン	ケニア
国費	学部学生																
	大学院生	1①	8①	1	2②	1		18④		1	1	2①		4①	1	1	
	研究生等		5①				1①	6②					2	3①	1		1
	計	1①	13②	1	2②	1	1①	24⑥		1	1	2①	2	7②	2	1	1
外国政府派遣	学部学生													2			
	大学院生																
	研究生等																
	計													2			
私費	学部学生			1①				27⑧	5①					2			
	大学院生		3					38⑪	4①	1①				2			
	研究生等				1			19⑩	1①				1①				
	計		3	1①	1			84㉙	10③	1①			1①	4			
合計	学部学生			1①				27⑧	5①					4			
	大学院生	1①	11①	1	2②	1		56⑮	4①	2①	1	2①		6①	1	1	
	研究生等		5①		1		1①	25⑫	1①				3①	3①	1		1
	計	1①	16②	2①	3②	1	1①	108㉟	10③	2①	1	2①	3①	13②	2	1	1

＊ ○付数字は女子の数を内数で表す。国名はアルファベット順。　＊ 研究生等には、研究生の他に専修科学生・

人留学生数

平成8年2月1日

韓国	マレーシア	メキシコ	ミャンマー	ネパール	パキスタン	パラグアイ	ペルー	ロシア	フィリピン	シンガポール	スリランカ	タンザニア	タイ	チュニジア	ベトナム	ザンビア	合計
	1																1
4		1	2		1	1	2		3			3		1①		2	61 ⑪
1		1	2①	1	1			1①	3②			1	3①		1		34 ⑩
5	1	2	4①	1	2	1	2	1①	6②			4	3①	1①	1	2	96 ㉑
	8③																10 ③
	8③																10 ③
	5③										1						41 ⑬
9②																	57 ⑮
9④					1					1①							33 ⑰
18⑥	5③									1①	1						131 ㊺
	14⑥										1						52 ⑯
13②		1	2		1	1	2		3			3		1①		2	118 ㉖
10④		1	2①	1	2			1①	3②	1①		1	3①		1		67 ㉗
23⑥	14⑥	2	4①	1	3	1	2	1①	6②	1①	1	4	3①	1①	1	2	237 ㊾

科目等履修生・特別聴講学生・特別研究学生を含む。

長崎大学外国

区分 ＼ 出身国・地域等		アルゼンチン	バングラデシュ	ボリビア	ブラジル	カンボジア	チリ	中国	中国（台湾）	エジプト	エチオピア	グアテマラ	インド	インドネシア	ヨルダン	カザフスタン	ケニア
学部学生	教育学部			1①				1①									
	経済学部							16⑤									
	医学部							1	2					1			
	歯学部							1	1①								
	薬学部																
	工学部							5①	2					3			
	水産学部							3①									
	計			1①				27⑧	5①					4			
大学院生	教育																
	経済							3①	1								
	医学	1①	8①	1		1		19⑥	1①			2①				1	
	歯学				1①			4③		2①							
	薬学 前																
	薬学 後		1					3									
	工学		1					12⑤	1		1						
	水産				1①			2						2			
	海洋		1					13	1					4①	1		
	計	1①	11①	1	2②	1		56⑮	4①	2①	1	2①		6①	1	1	
研究生等	教育							4②	1①					1			
	経済							5④									
	医学		2①					3②									
	歯学																
	薬学		1					3①							1		
	工学				1			5①									
	水産		1				1①	3②					1	2①			
	教養																
	熱研												1①				1
	海洋		1					2					1				
	計		5①		1		1①	25⑫	1①				3①	3①	1		1
合計		1①	16②	2①	3②	1	1①	108㊱	10③	2①	1	2①	3①	13②	2	1	1

＊ ○付数字は女子の数を内数で表す。国名はアルファベット順　　＊ 研究生等には、研究生の他に専攻科学生・

人留学生数　　平成8年2月1日現在

韓国	マレーシア	メシキコ	ミャンマー	ネパール	パキスタン	パラグアイ	ペルー	ロシア	フィリピン	シンガポール	スリランカ	タンザニア	タイ	チュニジア	ベトナム	ザンビア	合計
																	2 ②
	6②																22 ⑦
	2																6
																	2 ①
	2①																2 ①
	4③										1						15 ④
																	3 ①
	14⑥										1						52 ⑯
																	4 ①
2			1		1	1	2		2			3		1①			47 ⑪
			1														8 ⑤
																	4
3																	18 ⑤
									1							1	7 ①
8②		1														1	30 ③
13②		1	2		1	1	2		3			3		1①		2	118 ㉖
1①		1											1				9 ④
1①													1①				7 ⑥
1①					1			1①				1					9 ⑤
			1						2②								3 ②
																	5 ①
1					1												8 ①
3													1		1		13 ④
1①										1①							2 ②
			1①	1					1								5 ②
1																	6
10④		1	2①	1	2			1①	3②	1①		1	3①		1		67 ㉗
23⑥	14⑥	2	4①	1	3	1	2	1①	6②	1①	1	4	3①	1①	1	2	237 ㊾

科目等履修生・特別聴講学生・特別研究学生を含む。